

演奏に役立つ

One Point Lesson

T U B A テューバ

「低音域」から「ハイトーン」まで、音域を広げよう!!

みなさんこんにちは！季節はすっかり秋ですね。秋といえば読書、スポーツ、食欲！（笑）、そして忘れてはいけないのが芸術の秋。

今回のテーマは、音域の拡大についてです。

■低音域を練習する際の注意事項

まずは、「低音域」についてです。チューバを演奏していく上で、「低音域は一番重要なだ」といっても過言ではないと僕は思っています。よく低音域の方が簡単だと思って、ハイトーンばかり練習している人がいますが、低音域をよい音色で演奏している人はなかなか見かけません。低音域で息を吐くのがしんどくなったり、中音域より低音域のほうが息が長く続く人は、おそらくよい音色で演奏できていないと思います。

低音域を吹く上で大事なポイントを3つあげます。まず1つめは、下の音にいくほど『息の量がたくさん必要』ということです。リラックスして、たっぷりの息を楽器に送り込んであげましょう。2つめは、『息のスピードをゆっくりにする』こと。暖かい息をたくさん吐くようにイメージするとよいかもしれません。3つめは、下の音になるにつれて『口を大きく開けること』です。6月号の音色について書いたときの『お』の発音のイメージで開けてみましょう。さらに低音域を演奏するときには、口と一緒に喉を開かないといけないのですが、これは、口の奥に空気でできたピンポン球が入っているようにイメージするとよいと思います。

少し難しいかもしれません、とりあえず何事も練習から！というわけで、【譜例1】を演奏してみましょう。この練習をするとときに大事なのは、必ず自分の出せる最高によい音で練習することです。先程書いた3つのポイントを参考にしながら耳をよく使って、よい音が出ているか確認しながら進めてください。最初の中音域でまず最高の音を出して、その音色を変えないように下がっていきます。

下の音に下がるにつれて、口を縦に開いていくようにイメージするとよいでしょう。

次に【譜例2】を演奏してみましょう。少し難しいかもしれません、こちらもよい音で演奏できるように根気よく練習しましょう。どちらの練習も、休符の部分でたっぷりとプレスをとるようにしてくださいね。

■ハイトーンを練習する際のポイント

次は、ハイトーンについてです。これについては、問題を抱えている人が多いと思いますが、まず一番大事なのは、ハイトーンを“高い”とか“難しい”と思わないことです。いきなり精神論から突入してしまいましたが、これはかなり大事なことです。大多数の人が、「ハイトーンは難しい、キツイ」と思い込んで力んでしまい、自分の首をしめてしまがちです。ハイトーンだからといって、難しいと考えすぎないようにしましょう。

ハイトーンがしんどくなる理由はいくつかありますが、1つは体に力が入ってしまい、息を楽器に送り出すことが困難になるからです。試しに体に思いきり力を入れて、たっぷりとした息を出そうとしてみてください。おそらく出せないとおもいます。人間は力を思いきり入れると息が出なくなるんです。重い荷物を持つときも息は止まりますよね。もう1つの理由は、唇を力いっぱい閉めすぎて息を絞り出すような奏法になっていること。この状態でもよい音を出すことはできません。唇

を横に引っ張るもの

よくありません。

ハイトーンを吹く

には、唇の細かい振

動が必要なのですが、

その細かい振動を得

るためにには、唇の真

ん中を使うこと、そ

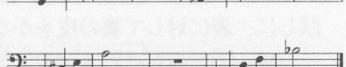
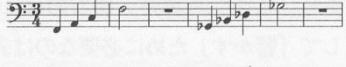
れにある程度の息の

スピードが必要にな

【譜例1】



【譜例2】



川浪浩一 かわなみ・こういち



◆出身 福岡県立豊津高校、相愛大学
◆所属 大阪フィルハーモニー交響楽団
◆趣味 野球観戦 お酒を少々？
◆血液型 B型
◆星座 みずがめ座
◆読者にひとこと 楽しく練習しましょう！
◆手紙の送り先 BJ 気付 もしくは kawanami-bm.tuba@angel.ocn.ne.jp

ってきます。チューバよりも小さい口径のトロンボーンやユーフォニアムなどのマウスピースなどを借りて練習すると、分かりやすいかもしれません。中音域より、少し息をまとめて楽器に送り込むイメージです。この息をまとめるのに、上唇を下唇にほんの少しかぶせていました、その逆の人もいますが、これは各自の口の形などで変わってくるので、自分で鳴りやすい方法をみつけましょう。ただし、口の形が変わりすぎないように注意してくださいね。

では以上のこと気につけながら、実際に練習をしてみましょう。まず【譜例3】を演奏してみましょう。この練習もたっぷりとプレスをとってよい音で、そして耳をしっかりと使って練習します。唇の振動が途切れないように注意してください。慣れてきたら同じ要領で、【譜例4】も演奏してみましょう。どちらもすぐに結果を出そうとしてはいけません。根気よく毎日練習してくださいね。今回載せた譜例は、すべてマウスピースでも練習することをお勧めします。

それと最後に注意ですが、低音域の練習は、ハイトーンの倍、行なうようにしましょう。これはハイトーンの練習ばかりしていると、音が硬くなったり、体に力が入りやすくなってしまいがちだからです。あくまでも基本は、低音域や中音域と考えるようにしましょう。

【譜例3】

